

第12回 最終章

さて、思いつくままに今までの自分の人生を振り返りながら、ありのままに書いて来ましたが、皆様にこれまで読んでいただき、これ以上、ご迷惑をかけられませんので、この章で終わりにしたいと思います。古希を迎えた今年（2016年）、ここまで生きて来られて本当にラッキーだったと思っています。現在、私は仕事なしの完全年金生活者の一人です。老後の生活は余生と言うのでしょうか、或いは、人生の黄昏時（たそがれどき）と言いましょうか、若い頃とは全く違った人生を歩んでいる様な感じがしています。勿論、余生の話など、そんなの『よせい！！』と、お叱りを受けるかも知れませんが、老後の人生も、色々と今まで思いもしなかった悩みが多くて、若い頃以上に生きる事は辛くて大変な事だと、身に沁みて感じています。これでは、毎日が日曜日どころか、イバラの日々です。年寄り・老人は英語で Senior（シニア）と言います。よくよく考えてみますと、文字通り、死ニア（near）死が（近い）と言う意味にとれますね。そう解釈すれば、そろそろ私も覚悟をしなければと思っています。

さて、私は、2010年の元旦から正式に完全リタイアをしました。それは、それまでの過去の自分とキッパリとサヨナラした事でもあります。つまり、過去の自分を完全にデリートして、新しい自分へと変身したのです。その時、私は63歳と5ヶ月でした。普通、こちらでは65歳が定年と言われ、政府もそれを基準にして年金制度を組み立てています。ですから、私はほぼ1年半、早くリタイアをしたのです。別に会社から勧告された訳でもなく、政府から言われた訳でもありません。もし私に仕事があったり、もっと働きたいと言う意志があれば、かなり高齢まで、それこそ死ぬまでも働く事が出来たと思います。でも、私は早いリタイアを選択したのです。それには、大きく二つの理由がありました。一つは、仕事を失った事です。（探せばあったと思いますが、人生働く事だけが能ではなく、遊ぶ事や楽しむ事も人生だと考えていました。）そしてもう一つの理由は、やはり健康問題です。こちらの方が、主な理由でした。（この事は、若い世代の方々にはご理解出来ないと思われれます。現に、私も若い頃は、リタイアは、毎日が日曜日で好きな事が出来ていい身分だと言う認識しかありませんでした。でも、それは還暦を迎える頃から、大きな間違いだと気付き始めたのです。）

リタイアする時、リタイア後に来る長い人生をどう過ごすかと、色々と悩みました。それらについては多くの関連書も出版されていて、真面目に読んだりした事もあります。が、最後は自分で決める他、道はありません。色々とお金の計算をしたり、人生の生き甲斐も、健康も考え併せて、まだ未経験の未来の老後を描いてみたのです。健康について言いますと、私は高専4年生の夏休み前、腰辺りの少し上部の背骨の一部を砕いてしまう事故に遭っているのです。幸い、脊髄は損傷していなく、4ヶ月ほどで回復しました。しかし、将来、高齢になった時、多分、その後遺症が出るでしょうと、医者から言われていました。55歳を過ぎた頃から、私の姿勢が段々と前かがみになって来ていると、妻に指摘されました。還暦を過ぎる頃から、朝起きる時、背中、もしくは、腰の部分に多少の痛みが走るのです。マッサージに行ったり、鍼（こちらでも日系もしくは中国人の鍼灸師がいます）に行ったりしたのですが、なかなか治癒しません。今でも朝、起き上がる時、ベッドの中で寝たまま少し身体を動かし、両足を高く上げ、下へ降ろす時の反動で上半身を起こす動作をしています。そして、ラジオ体操の様な事をして身体をほぐすのです。若い頃には全くそう言う事がなくピンピンしていましたが、どうやら、担当医の診断は的中したようです。これ

からも、その痛みと戦う事でしょう。それに加えて高血圧、リュウマチ、前立腺肥大、糖尿病、膀胱炎、聴力&視力の低下、白内障の兆し、体力の低下、その上ボケの始まり!!! もう、他人の事より自分で自分の面倒見る事が最大の仕事になった感じです。

と、ここまで書いた時、高専時代の友達からメールが入り、2016年11月12日に、卒業50周年記念機械・電気合同の同期会を宇部で開催する事を伝えて来ました。勿論、それまでも2002年の恩師の退官記念会と、2012年の宇部高専創立50周年記念同窓会にも参加していました。でも、今回、卒業50周年記念同期会との事で、私にとっては懐かしさがこみ上げて来るイベントです。直ぐに、妻に相談して同意をもらいました。そして、直ちに航空券をインターネットで購入しました。(便利な世の中ですよ。) それと同時に、前後して、母校の同窓会会長さんからの依頼で書いていたエッセイ、つまりこのエッセイなのですが、私の拙い文章で良いのかを批評してもらうため出来上がった一部を送っていました。そして、少し時間をおいて面白いので掲載するとのメールが来たのです。その後、暫くの間、日本へ行く準備と計画の立案で気持ちは上の空でした。ですからエッセイを書くどころか、一時中断です。念入りに、久しぶりの日本一人旅の計画に没頭しました。

同期会も終わり、日本から戻って来て、今年(2017年)になって、記録的な大雪の冬を通り抜けて、3月中旬にやっと続きを書く気持ちになりました。

ところで、カナダの生活、カナダの文化、カナダの政治、カナダの歴史・・・等々 本当は、もっともつと色々書きたい事が沢山あって、初めの頃はいっぱい書こうと思っていたのです。ところが、同期会の時、同日に行われていた高専祭を見て回り、時代が完全に変わり、私はもうとつくの昔に賞味期限が切れている人間だと自覚させられました。輝く若い世代の学生達を見て、それは、羨ましい限りでした。そして、私自身がもう完全に時代遅れの人間である事を悟ったのです。ですから、今更、私の様な人間がゴタクを並べて書いても意味がないゴミの様な話です。ただ、長い間、実際にこちらに住んで生活していますので、日本を外から見ての感じを、小話としては書けるかも知れないかと思ったのです。今の世界は想像もしなかった情報が、インターネットを通じてこの世界を駆け巡っています。多くの人達が、海外での体験談を書いていますし、それも、写真や動画付きになっていますので、詳しく知ることができます。ですから、そちらの方を読まれた方が、詳しく知るには良いと思います。

最後に、自分の家庭の事と、今、感じている日本への想いを書いて『私の履歴話』を締めくくりたいと思います。

思えば、宇部高専に入学して初めて宇部市に住んだ時、私の世界は小倉から宇部へと少し広がりました。高専時代、両親の故郷、福島へ行った時、もっと広がりました。東京へ行った時、初めて日本の首都を知りました。そして、22歳の時、外国、カナダに移住して私の世界は北米へと広がりました。カナダに住んで今年(2017年)で49年、その間、カナダを見、そして、お隣りのアメリカも見ました。小学生の時に不思議に思っていた事、どうしてアメリカはすごくお金持ちなのかと言う疑問。その答えを未だに、ハッキリと見つけ出していませんが、とにかくこの世界はドンドンと、ものすごい勢いで変化して来ました。

それだけで、私は歴史の証言者になる資格は十分にあると思います。

最初の頃感じた北米は、ただただ、日本に比べて途方もなくデッカイ国土だと言う事を肌で感じました。とにかく、スケールが違うのです。そして、生活する社会の中で色々な国々の人達と働きました。

また、日本は、1970年代から飛躍的に経済成長しました。最初に日本へ帰省した年は、カナダに来て8年目のことです。30歳でした。その後の14年間は、帰省しませんでした。いや、出来なかったと言う方が、事実です。その時代は、3人の子供達の養育に追われて金銭的な余裕がありませんでした。

50歳になった時、初めて妻と二人でイギリス、フランスを16日間に渡って旅行しました。

その後、ヨーロッパには5回ほど行きました。そして、最後に行きたいと願っている所が、中東の遺跡とエジプトのピラミッドなのです。そこが、私の計画した世界旅行の最終目標地点なのです。

(今の状況では、妻が同意せず、行きたいのなら死を覚悟でお一人で、どうぞ、との事です。)

さて、これからの人生、70歳代、80歳代を考えますと(そこまで生きられるかは、疑問ですがね)カナダでの生活はかなり厳しくなるのではないかと感じています(日本でも、同様かも知れません)。その理由は、カルチャーギャップなのです。日本では、社会の大変化で、昔と今の時代では根底から違っていると思います。つまり、いつも言われる、時代が違うと言う事でしょう。でも、私の場合は、それに加えて、日本とカナダとのカルチャーギャップがあるのです。

私は、いつも背中に日本文化を背負っているのです。それが、どうしても下ろせないのです。

また、カナダで生まれた子供達3人は日本の文化の影響は少なく、実際に、話す言葉も親子の間でさえ英語と日本語のチャンポンなのです。ましてや、今9歳の孫を筆頭に6人の孫がいますが、孫とはいつも英語での会話になっています。それが現状です。でも、私は元々、子供達への期待としては独立独歩で暮らせば良いと思っていましたので、それぞれが、家庭を持ってりっぱに生活しており(長男は、カナダ生まれの中国女性、長女はヨーロッパ系の白人男性、そして次女はカナダ生まれの中国男性と結婚しています)、それで良しとしています。その上、みんな車で15分も離れていない同じ都市に住んでいます。

ところで、以前、日本の会社を退職してこちらに移り住んでいる年配の人と、ある会合で飲んだ事があります。その時、彼が言うには、こちらにいて思い出すのは、日本の盛り場のあの赤ちょうちんの灯りと言うのです。あの風情は、日本の風土だからこそ情緒があると言うのです。決して、こちらでは味わえないと言うのです。その時は、そんなに理解できませんでしたが、最近、ものすごく彼の心情が、判るようになって来ているのです。

何だか、この年になって、私は情動的に日本の方へ向いている感じがするのです。勿論、こちらに住んでみて、日本にはないとても素晴らしいと思う良い点が沢山あります。豊かな自然、穏やかな四季、ノンビリとした街。戸外での活動は、誰にも邪魔されないほど、静かです。

でも、ヤッパリ、ここは、日本ではないのです。多民族で構成されている国家であり、今年(2017年)で建国、僅か150年しかない若い国なのです。いいですか、ほぼ50年間カナダに住んでいる私は、何とカナダの歴史の3分の1を、体験していると言う事です。国の歴史の3分の1です。日本には絶対そう言う発想は不可能な事でしょう。また、三つ子の魂、百までもと言いますね。高齢になっても、日本文化から逃れられないのが現実だと思います。海外にいくら長く住んでも、今まで思いもしなかった

日本文化への憧れを、最近、強く感じるようになったのです。(望郷の念と言うのでしょうか。異国で生活する者の宿命でしょうね。)

それでは、最後に、若い世代の人達に、一言だけ、アドバイスを贈ります。

英語の勉強は、若い内にやって下さい。

諺に No man is so old but that he may learn. が、ありますね。

でも学ぶと言う意欲は、大切ですが、語学に関しては絶対に若い内にやるべきです。



カナディアンロッキーのモレーン湖です。

最後まで読んで下さいまして、誠にありがとうございました。

2017年5月1日 記

・・・ おしまい ・・・